

第2期中期目標期間
(平成22～27年度)
自己点検・評価報告書

平成28年3月

附属図書館

目 次

- I 中期目標期間の実績概要
- II 特記事項
- III 次期中期目標期間に向けた課題等
- IV 中期目標・中期計画ごとの自己点検・評価

I 中期目標期間の実績概要

1. 組織の特徴

本学附属図書館は、本学の長期目標である「世界最高の理工系総合大学」実現のため、研究、教育及び学習に必要な学術情報を収集、整理し、各種サービスを通じて広く学内外の研究者・学生の利用に供することをその目的及び使命とする。

本学附属図書館は、昭和 52 (1977) 年に「理工学系外国雑誌センター館」に指定され、旧文部省の指導した学術情報システムに当初 (昭和 59 (1984) 年) から参画し、東京工業大学電子図書館システム (TDL: Tokyo Tech Digital Library) (平成 11 (1999) 年サービス開始) の充実強化を図るなど、わが国の学術情報ネットワーク及び学術情報流通において中核的な役割を担ってきている。さらに、地域住民や一般社会への開放や休日開館も実現している。

大岡山キャンパスに「附属図書館 (本館)」, すすかけ台キャンパスに「すすかけ台分館」を配置する。大岡山本館は平成 23 年 7 月に新図書館を全館オープンした。

本学附属図書館において業務を担当している研究推進部情報図書館課の役割と組織構成について、以下に示す (資料 1)。

(資料 1) 情報図書館課の役割と組織構成

附属図書館としての運営・サービス

- ①教育・研究・学習に必要な資料の収集・提供
- ②電子ジャーナル、データベース、電子ブックの整備
- ③理工学系外国雑誌センター館機能の充実
- ④電子図書館サービスの提供
- ⑤学生・教員の学術情報アクセス支援(講習会等)
- ⑥快適な学習・研究空間の確保(閲覧席・教員ブース)
- ⑦一般市民へのサービス

大学としてのサービス

- ①研究情報の発信(東京工業大学STARサーチ)
- ②教育・研究成果の蓄積・発信(東京工業大学リサーチリポジトリ:T2R2)
- ③研究者情報の蓄積・提供(研究者情報管理システム)

総務グループ	附属図書館の管理運営等【庶務・渉外・経理・予算管理】
情報管理グループ	図書館資料構築の企画・立案、目録情報の作成、資料の寄贈等【資料収集・受入・契約】
電子図書館グループ	図書館電子計算機システムの運用・管理、T2R2・STARサーチ・研究者情報管理システムの運用事務【各種システム管理】
利用支援グループ	学習支援、情報アクセス支援、広報等【大岡山地区担当】
すすかけ台図書館グループ	分館の管理運営、学習支援、情報アクセス支援、広報、ペリパトス文庫等【すすかけ台地区担当】

出典：図書館作成資料

2. 実績の概要

(1) 魅力ある学習空間の提供, 便利で快適な学習・調査環境の整備

大岡山本館は平成 23 年 7 月に新図書館を全館オープンし, 安全かつ快適な利用環境を提供している。さらに平成 27 年 1 月には学習棟をリニューアルオープンし, アクティブ・ラーニング型授業に対応した学修環境を整備した。

すずかけ台分館は改修工事や施設の更新などを行うと共に, 新たなサービスを開始することで, すずかけ台地区の学生・教職員が利用しやすい学習・研究空間の提供に努めている。

(2) 学術資料の充実

契約電子ジャーナルタイトル数は 18%増, 電子ブック所蔵数は 2.8 倍に増加した。電子ジャーナル, データベース等の整備については, 電子ジャーナル等専門委員会を平成 26 年度に設置した。

平成 27 年 2 月大岡山・すずかけ台に語学・留学用資料コーナーを, 3 月にリベラルアーツ資料コーナーを設置した。

(3) 外国雑誌センター館

平成 24 年に資料収集方針を改正, 平成 25 年に系別資料収集方針を改正し, 平成 26 年にセンター館の評価の方向性を示した「今後の外国雑誌センター館の評価について」を策定した。

(4) 図書館サポーター

平成 22 年に創設した図書館サポーター制度により, 多くの東工大学生が幅広い図書館のサポート業務に従事している。

II 特記事項

1. 優れた点

(1) 国際化への対応

平成 26 年度、27 年度にスーパーグローバル大学創成支援経費により、本館・分館内の案内表示の英語化、館内放送の英語化（本館・分館）、「博士論文電子公開ガイドライン説明会」・「博士論文電子公開に関する FAQ」、新図書館パンフレット英語版原稿の作成等、附属図書館のグローバル化に向けてさまざまな取組みを行った。

(2) 学術資料の充実

平成 25 年度より研究大学強化促進事業経費を活用して、電子ブック・電子ジャーナルバックファイル・データベースを導入し、大学の研究環境の整備に貢献した。

(3) 親しみやすい場の提供

平成 21 年より開始した企画展示では、毎回テーマを設け、図書館サポーターや図書館職員が推薦する図書館資料を推薦文とともに展示することで、多くの図書館利用者に親しみやすい場や読書に親しむきっかけを提供している。

2. 特色ある点

(1) 大岡山本館の新築・リニューアル

大岡山本館は平成 23 年 2 月に竣工、5 月に地上階のみ部分オープン、7 月に全面開館した。これにより安全かつ快適な利用環境が確保された。2、3 階は学習スペースとし、学習支援機能を強化した。地下 2 階には自由に会話のできるくつろぎの場としてリフレッシュルームを設置した。

平成 27 年 1 月には 2、3 階をグループ学習支援を目的にリニューアルし、アクティブ・ラーニングに対応した。3 月には地下 1、2 階に個人用ソファを設置し、図書館滞在時の快適性を向上させた。

Ⅲ 次期中期目標期間に向けた課題等

- (1) アクティブ・ラーニングを促進する場を提供するとともに、本学学生・教職員のニーズを踏まえ、国際通用性のある教育・研究支援機能を強化するために、学生の積極的・主体的な学習を促す支援サービスや企画を実施する。
- (2) 語学・留学用資料，リベラルアーツ資料，留学生用資料等の図書館所蔵資料を積極的に活用し，新カリキュラムにおける学修支援活動を行う。
- (3) クォーター制の実施に伴い，試験回数の増加に対応した試験期間の開館時間延長を実施できるよう開館日・開館時間を変更する。
- (4) 外国雑誌センター館の使命を果たすとともに，電子ジャーナル等の整備と安定的供給に努め，図書館資料の質と利用環境の向上を図る。
- (5) 学修・調査環境の整備及びサービス向上のため，電子図書館システムの更新を行う。

IV 中期目標・中期計画ごとの自己点検・評価

1. 教育に関する目標

(1) 学生への支援に関する目標

中期目標 「I-1-8.図書館業務に学生の視点を活用する。」

中期計画「図書館サポーターを設置し、学生による活動を図書館運営に活用する」

<実施内容と達成状況>

平成 22 年 5 月に本学学生による図書館サポーター制度を発足させた。学生の意見を定期的に聴取して、図書館運営の参考とする他、資料装備、カウンター対応、書架整理、蔵書点検、展示企画、広報等幅広く図書館業務を学生が支援している。

<自己評価判定>

「中期計画を十分に実施している」(Ⅲ)

2. その他の目標

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標 「I-3-1.大学の有する知の提供を通じて社会と連携するとともに、社会貢献を果たす。」

中期計画「Tokyo Tech STAR (Science and Technology Academic Repository) 構想に基づく教育研究成果の発信を充実する。」

<実施内容と達成状況>

Tokyo Tech STAR 構想に基づく教育研究成果の発信を充実するため、平成 22 年度、学内に散在していた研究者のプロフィールや教育研究業績等に関する情報を横断的に検索し、検索結果を研究者に紐付け統合して表示する機能を備える東京工業大学 STAR サーチ (STAR Search) を開発し、平成 23 年 5 月に公開した。また、より高度な機能の提供、学内他システムとの連携の強化、及び利用者の利便性の向上等を目的とした機能開発等を行った。

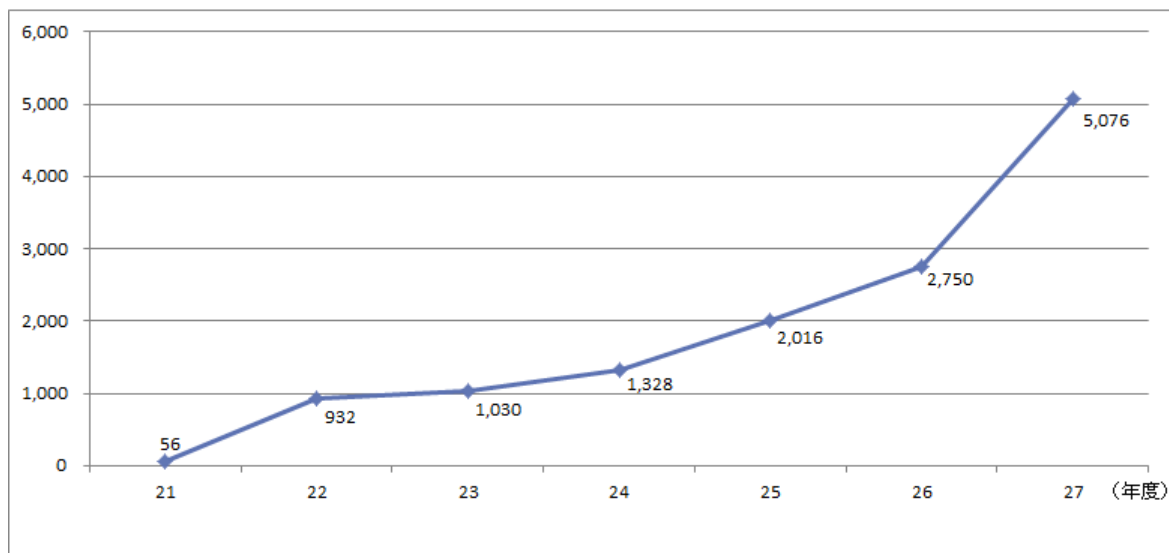
本学の教育研究成果を発信する東京工業大学リサーチリポジトリ (T2R2) では、教育研究成果の発信を促進するため、研究者が登録したコンテンツへのアクセス状況通知機能の追加や利用者支援機能の改善、本学研究者による研究業績の本文データの公開を積極的に進めた結果、平成 21 年度末に 56 件であった公開数が平成 27 年度末には 5,076 件に達した (資料 2)。

平成 25 年度には学位規則の一部を改正する省令を受け、学位論文の登録・公開を行うための機能を追加した。これにより、学位論文の公開件数は、内容要旨 714 件、審査結果の要旨 715 件、本文 607 件となった (資料 3)。

平成 26 年度には、研究者のプロフィール情報を蓄積・提供している研究者情報管理システムをバー

ジョンアップし、連携する STAR Search へ提供するデータを充実させた。また平成 27 年度には、STAR Search 及び T2R2 に研究者情報の発信を行う外部サービスである ORCID, ResearcherID との連携機能を追加し、本学の教育研究成果の発信機能を強化した。

(資料 2) T2R2 本文ファイル公開数 (累計)



出典：図書館作成資料

(資料 3) T2R2 学位論文公開件数 (累計)

種別	公開件数
学位論文	607
学位論文 (内容要旨)	714
学位論文 (審査結果の要旨)	715

出典：図書館作成資料

<自己評価判定>

「中期計画を十分に実施している」(Ⅲ)

3. その他業務運営に関する目標

(1) 施設設備の整備・活用等に関する目標

中期目標 「V-1-1.魅力ある学習・研究環境を確保する。」

中期計画「新図書館において魅力ある学習・研究空間を提供するとともに、すずかけ台図書館の環境整備を進める。」

<実施内容と達成状況>

大岡山では平成 23 年 7 月に新図書館を全館オープンし、安全かつ快適な利用環境を確保した。平成 27 年 1 月には学習棟（2 階・3 階）をリニューアルオープンし、東工大教育改革によって増加すると見込まれるアクティブ・ラーニング型授業の予習復習に対応した学修環境を整備した。

(資料 4) 学習棟 2 階の内観



出典：図書館作成資料

平成 25 年度～27 年度においては、土日祝日の開館時間延長について試行(大岡山)した。

平成 27 年度には大岡山・すずかけ台ともに館内サイン・館内放送の見直しを行い、国際化への対応のため英語サインや英語による放送の充実に向けた準備を進めた。

すずかけ台図書館は、昭和 54 年に竣工し、近年施設設備の老朽化が大きな課題となっているが、改修工事や施設の更新などを行うと共に、新たなサービスを開始することで、すずかけ台地区の学生・教

職員が利用しやすい学習・研究空間の提供に努めている。

平成 22 年度に空調機の大規模改修，エレベーターの交換を実施した。平成 25 年度には，すずかけ台図書館の設備・サービス改善のためのアンケート調査を実施し，要望のあった無線 LAN 利用範囲を全館に拡大することで，インターネット環境の改善を行った。平成 26 年度には 1 階の改修工事を行い，利用の多いペリパトス文庫を 2 階から移設した。その跡地には新たに語学学習や留学関連資料と，留学生のための日本語学習支援資料，リベラルアーツ教育を支援する資料を配置し，それらを利用しやすい什器等も設置した。同じく平成 27 年度にはゼミ・プレゼンテーションルーム 1 の開放によりグループ学習しやすい場所を提供し，ノートパソコンと iPad の館内貸出や，机に LED 照明やコンセントの設置などを行うことで，アクティブラーニングや図書館が提供する電子資料を利用しやすい自学自習の推進に努めた。

<自己評価判定>

「中期計画を十分に実施している」(Ⅲ)

中期目標 「V-1-4.教育研究の高度化に資するため，学術情報基盤を強化する。」

中期計画「教育・研究・運営に係る情報基盤を一元化・高度化し，セキュリティを確保しつつ情報の連携を高める。」

<実施内容と達成状況>

教育研究情報の一元化及び情報の連携を高めることを目的に，平成 22 年度，学内に散在していた研究者のプロフィールや教育研究業績等に関する情報を横断的に検索し，統合して表示する STAR Search を開発し，平成 23 年 5 月に公開した。

本学における教育・研究活動の成果を一元的に蓄積・管理・発信する T2R2 は，教育・研究に係る情報基盤の高度化を目的として，情報活用 IR 室での活動に向けたデータ集計機能の追加や，平成 25 年度の学位規則の一部改正を受けた機能追加等を行った。

STAR Search，T2R2 とともに毎年保守・運用支援契約を締結し，セキュリティの確保とサービスの安定的な提供を行いつつ，本学の教育研究成果の発信機能及び情報の連携機能を強化するための機能改善等を行い，特に平成 27 年度には，研究者情報の発信を行う外部サービスである ORCID，ResearcherID との連携機能を追加した。

また，平成 26 年度には研究者のプロフィール情報を蓄積・提供している研究者情報管理システムにおいて，教育・研究に係る情報の連携を高めるためバージョンアップを行い，STAR Search へ提供するデータを充実させた。

<自己評価判定>

「中期計画を十分に実施している」(Ⅲ)

中期目標 「V-1-4.教育研究の高度化に資するため、学術情報基盤を強化する。」

中期計画「附属図書館の学術・参考資料を充実するとともに、便利で快適な学習・調査環境の整備等を行い、学習・研究支援機能を強化する。また、外国雑誌センター館として、学術雑誌を幅広く収集し、理工学系の学術情報を発信する拠点としての役割を果たす。」

<実施内容と達成状況>

電子ジャーナルは、契約タイトル約 8,000 点から 13,000 点と増加し、電子ブック所蔵数は、約 6,000 点から 17,400 点と増加した(第 1 期末との比較)。電子ジャーナル、データベース等の整備については、電子ジャーナル等専門委員会を平成 26 年度に設置し、当面現行の電子ジャーナル契約を維持する方針を策定し、部局による経費負担のスキームを、これまでの講座経費の比率による負担に加え、間接経費の配当額から負担するモデルを検討し、部局長等会議にて平成 28 年度以降の導入の承認を得た。

(資料 5) 電子ジャーナルと電子ブックの契約タイトルの推移

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
電子ジャーナル	10,907	11,532	11,629	12,566	12,943	12,981
電子ブック	6,445	6,977	10,582	14,773	17,117	17,397

出典：図書館作成資料

平成 27 年 2 月大岡山・すずかけ台に語学・留学用資料コーナーを、3 月にリベラルアーツ資料コーナーを設置し、外国語学習関連資料、リベラルアーツ図書(東西の古典的名著・名作)とそれらを映画化した AV 資料を集中的に購入・配架した。

平成 27 年 4 月には学生・教職員への貸出冊数を増加し(教職員・大学院生は 10 冊から 15 冊へ、学部生は 5 冊から 10 冊へ)、所蔵資料の利活用を進めた。

外国雑誌センター館の活動については、電子ジャーナルパッケージ及びバックファイルも含めた資料収集体制とすべく、平成 24 年に資料収集方針を改正し、平成 24～26 年度に大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)による「Springer 3 年間包括提案」に協力し、3 年間の価格上昇抑制と 1999 年以前のバックファイル整備を果たした。なお、当該バックファイルについては、平成 27 年 8 月に NII(国立情報学研究所)の電子ジャーナルリポジトリ(NII-REO)を通じて、国内すべての大学、及び大学に準ずる教育・研究機関からアクセスが可能となった。資料収集方針の改正の後、平成 25 年に系別資料収集方針を改正し、平成 26 年にセンター館の評価の方向性を示した「今後の外国雑誌センター館の評価について」を確定し、平成 27 年度から評価資料「外国雑誌センター館統計集計結果」にパッケージの評価情報も含めて公表するに至った。

<自己評価判定>

「中期計画を十分に実施している」(Ⅲ)